

熱性けいれんについて

かいせいクリニック
小児科 大見 剛



熱性けいれん(熱が出た時のひきつけ)

主に生後6か月～5歳頃までの乳幼児期に起こる、通常は38℃以上の発熱に伴う発作性の病気で、髄膜炎などの中枢神経感染症、代謝異常、その他の明らかな発作の原因がみられないもので、てんかんの既往のあるものは除外される。

ひきつけたときはどうする？

ひきつけたときはどうする？

- ① あわてない: 通常は数分間で止まります。命に関わることはまずありません。
- ② 何もしない: 口の中にもものを入れない。大声で呼んだり、体を揺すったり、押さえつけたりしない。
- ③ 楽な姿勢で: 衣服をゆるくし、危ないものから遠ざける。
- ④ 嘔吐に注意: 横向きに寝かせるか、吐きそうなときは顔あるいは体ごと横に向ける。
- ⑤ 観察する: 何分続いているか、けいれんの様子(左右差、目の動きなど)を観察、記録する。
- ⑥ 意識回復を確認: 意識がはっきりするまでは口から薬、飲み物を与えない。

救急車を呼ぶ必要があるとき

- ① 初めてのけいれんのとき
- ② 発作が5分以上続き、止まる気配がないとき
- ③ 保護者が発作でパニックになり、どうしてよいかわからないとき(判断に迷うとき)
- ④ 繰り返し発作が起こるとき
- ⑤ 全身ではなく体の一部だけ、あるいは部分的に強い発作のとき(いつもの発作と様子が違うとき)
- ⑥ 呼吸の状態がおかしい、他の神経症状を伴う(意識の戻りが悪い、麻痺など)

熱性けいれん Q&A

Q: 熱性けいれんは繰り返す？

A: 両親の熱性けいれんの既往など、特定の因子があると再発率が高くなりますが、半数以上の方は一生に1回のみです。

Q: 熱性けいれんを繰り返すとてんかんになる？

A: てんかんの発症率は既往のない方と比較すると多少高くなりますが、90%以上の方はてんかんになりません。また、熱性けいれんを繰り返すことでてんかんになるわけではないです。

Q: 熱性けいれんを予防することはできる？

A: 15分以上止まらないけいれんが一回でもある場合は予防薬の使用が考慮されますので、ご質問下さい。また熱性けいれんを繰り返すときにも予防薬の適応がある場合がありますので、ご質問下さい。

Q: 解熱剤の使用は？

A: 解熱剤で熱を下げてもらってもけいれんが起きにくくなることはなく、逆に起きやすくなることもないです。